

日刊 勤労千葉

85. 3. 16
No. 1890

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

労働学校・第12回 講座開かる (3/9)

『国鉄労働運動の展望』
講師・中野委員長

現場からの一人ひとりの実力決起に確信

労働学校を受講して

（木更津支部・Y生）

勤労千葉労働学校は、3月9日の第12回講座をもって第一期の全課程を終了した。体制的危機からの脱出をかけた反動・中曾根の軍事大国化・改憲―侵略戦争へむけた攻撃は、とりわけ国鉄と三里塚を焦点に全力で加えられてきている。労働運動が排外主義、企業防衛主義的イデオロギーに屈服を深めているなかで、こうした攻撃を打ち破る階級的視点、思想を学ぶため、勤労千葉は組織内外に呼びかけて労働学校を設立した。講師の協力、受講生の努力により一年間の全講座を成功裡に貫徹した今、労働学校のさらなる充実、発展にむけ、第二期労働学校の開催を決定した。組合員の積極的な参加を訴えるものである。本紙では「国鉄労働運動の展望」と題して中野委員長が講演した第12回講座の受講生感想文を紹介する。〔編集委員会〕

感想文

今日、第一期労働学校の終了式中、中野委員長が講師であるということ、動力車会館はいつになく活気に満ち、そうしたなかで「60・3」ダイ改についての背景・本質ということから入った。とくに、国鉄当局から「三本柱」をはじめとしたわれわれ労働者への攻撃がかけられている。ところが動労「本部」とりわけ、土屋一派は「職場と仕事を守るため」「国鉄を国鉄として残すため」と称し、千葉駅のキオスクへの販売員として出向、さらには上野駅のコーヒ

ー販売などと、何を考えてこのようなことをしているか自分にはサッパリわからない。われわれは、キオスクに入るために国鉄に入ったのではなく、国鉄労働者として入ったのである。さらに、動労「本部」革マルは、同じ組合員でありながら、組合員同志で仕事を奪い合い、当局に泣きつき「俺たちが仕事をやるから仕事をよこせ」など労働者としてあるまじきことをしている。こうしたなか、われわれ勤労千葉は2月20、21日の非協力・安全確認行動を闘いぬいた。あの81・3闘争とはちがった規模の小さい闘いではあるが、厳しい情勢のなかで、勤労千葉は、唯一闘いに決起し、当局に対して真向から立ちむかったのである。それはやはり現場の組合員一人一人の決起がそうさせたのである。

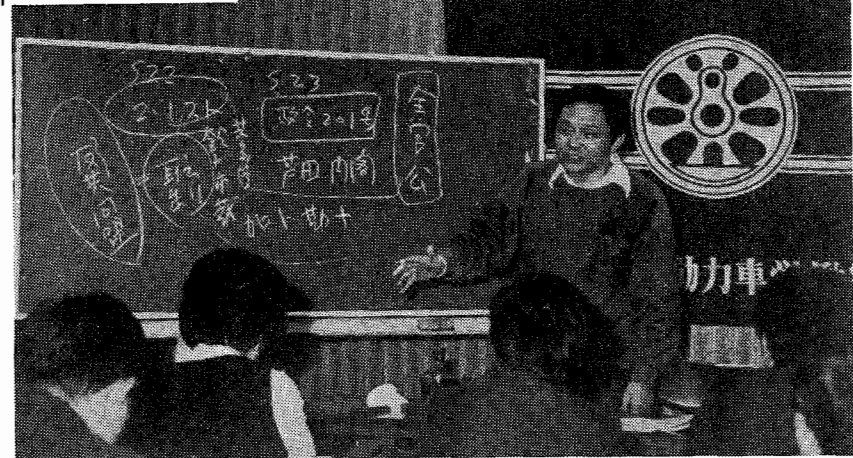
また、日帝・中曾根は軍事大国化・改憲攻撃などの侵略戦争への道を突進しはじめたのであり、85年二期工事強行着工、9・16東峰裁判へのデッチ上げ重罪求刑は反対同盟破壊を狙った断じて許せぬ攻撃である。この攻撃を勤労千葉一二〇〇名の力で3・24三里塚へ三たびの5割動員を貫徹し、国鉄労働運動解体攻撃を粉碎しなければならない。（寄稿）

1年間をやり通した顔に確信と誇り。
1人ひとりに修了証書が手渡された。



国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

現実の闘いと歴史の教訓がかみ合って生き生きと話された中野委員長の講義は、1年間の勤労千葉労働学校をしめくくるにふさわしいものだった。



委員会の成功かちとり、3・24総決起へ！

● 第十一期定期委員会の傍聴を！

（3月18日、10時、労働者福祉センター）

● 3・24三里塚への根こそぎ決起を！

（3月24日、10時、成田運転区集合口正午、三里塚第一公園、各支部最大限・作業衣上下）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！